

# タブレット活用実践紹介 ～上中での取り組み～

今年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいましたが、9月末をもってようやく3度目の緊急事態宣言が解除されました。しかしながら、感染症対策を引き続き徹底していかなければならない状況は変わりありません。本校では、このような学校生活が続く中でも、『学びを止めない』ための工夫をしながら、さまざまな実践に取り組んでいます。その中でも、今回は、上中でのタブレットの活用実践を一部紹介します。

## リモート実践いろいろ

### 土曜授業でトライアル



本校2学年で7月17日(土)にWeb会議システムを使った遠隔授業の実践を行いました。クラスの半分は教室で、もう半分は自宅で授業を受けるといったハイブリットの形態で実施しました。5教科を中心に、関わる教科の先生方は事前ICT担当より講義を受け、教材など事前準備をして臨みました。生徒も教師も初の試みで、機器の操作に悪戦苦闘しながらも、3時間の授業を終えました。

教科の特性にもよりますが、より効果的な活用となるには、まだまだ多くの課題があることを確認する機会とすることができました。今後さまざまな状況を想定した上で、「できることをやってみる」というスタイルで取り組んでいきます。

### 行事・生徒会でのトライアル

#### ○生徒会企画での実践



いじめ撲滅運動の一環である『絆プロジェクト』においても、今年度は緊急事態宣言下であったため、当初は全校縦割りグループで考えていた話し合い活動を、全校リモートでの話し合いへと変更して行いました。生徒会書記局が中心となって全体の司会進行を務め、各クラスで話し合った内容を共有しながら考える活動を行いました。クラスの委員長、副委員長はそれぞれの進め方で司会進行をし、活発な意見交換が行われていました。

#### ○部活動壮行式・認証式での実践



部活動壮行式もリモートで行いました。2つの学年は体育館で壮行式に参加し、1つの学年は教室にてリモートで壮行式に参加する形式でした。また、後期専門委員会の認証式もリモートで行いました。前期生徒会書記局メンバーから後期書記局や専門委員長へと引き継ぐ大切な場面で利用しました。代表生徒は後期に向けた意思表明をし、各教室では生徒たちが真剣に話を聞き、拍手を送っている様子がありました。

### 教科でのタブレット活用実践

#### ○授業支援ツールの活用

授業で使用する資料や確認テストなど

を一斉配付し、回収しています。また、チャレンジテストもタブレットで行いました。英語科の聞き取り問題でも教室のテレビを通して音声を出力させ、問題なく行うことができました。

#### ○学習活動ソフトウェアの活用

1年生で、学習活動ソフトウェアの機能を活用した学年道徳を実施しました。この機能では、自分の考えの変化が視覚的にわかり、他者と共有することも瞬時にできます。そのため、今後の道徳授業においても効果的な活用が期待できる実践となりました。

このように、本校では学校生活のさまざまな場面において、ICTの活用に変化が期待されています。それぞれの先生方が「まずはやってみる」という視点でトライアルしていきます。もちろんやりっ放しにするのではなく、振り返り、次へとながら工夫や改善をしながら効果的な活用に向けた取り組みをしています。必ずしも何か特別なことをすることだけがこれからの時代に対応したことにつながるのではなく、「今あるもの」をどう活用し、具体的に何をしていくのかを考えることが大切だと感じています。私たち教職員が試行錯誤を重ね、策を講じていくことによって、より生徒が主体的に学べる場や環境づくりへとつなげていくことができるのではないのでしょうか。

(上磯中学校 教諭 會津 聡子)